広報
すこやかさん
第39号
平成29年3月発行

東京都教育相談センター　〒169-0074　東京都新宿区北新宿４－６－１
（東京都子供家庭総合センター４階）
http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp　TEL　03-3360-4181　FAX　03-3360-4198

◆適切な指導の基盤は十分な児童・生徒理解

■適切な指導には「十分な児童・生徒理解」

児童・生徒がなぜ反抗的な態度をとったり、いじめを起こしたりするのか、どんな気持ちでいるのかを教員が十分に理解できず、効果的な指導につながらない経験はないでしょうか。反抗的な態度やいじめの行為を指導しても、根源となる原因を解消または軽減するための支援がなければ解決にはつながりません。

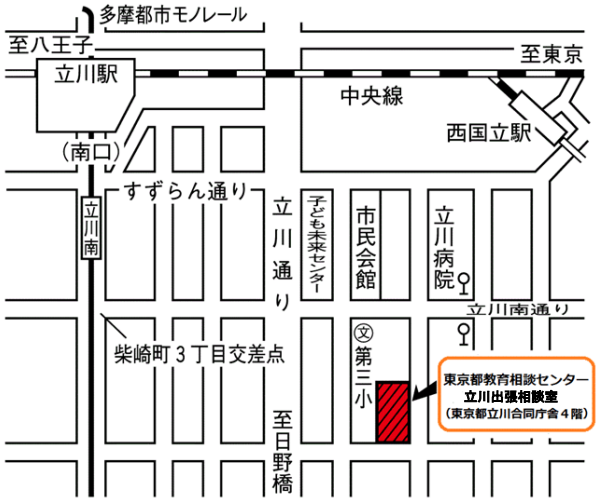
そこで、　今回はマズロー（Abraham Harold Maslow1908－1970）の「人の基本的な欲求」に当てはめた児童・生徒の事例とその課題、支援方法について紹介します。より適切な児童・生徒理解から、効果的な指導や問題解決の一助にしていただければ幸いです。

東京都いじめ相談ホットライン
24時間体制のいじめ相談専用電話
24時間受付　**0120-53-8288**

＜東京都教育相談センターのご案内＞

〒169-0074
東京都新宿区北新宿 4-6-1
東京都子供家庭総合センター４階
電　　話：03-3360-4181
ＪＲ中央・総武線「東中野駅」東口徒歩 11 分
東京メトロ東西線「落合駅」３番出口徒歩 10 分

＜立川出張相談室のご案内＞



立川出張相談室は、平成２７年６月２２日に移転しました。
〒190-0022　東京都立川市錦町 4-6-3　東京都立川合同庁舎４階
電話：03-3360-8008
ＪＲ南武線西国立駅から徒歩５分

生理的欲求（人間の生存に必要な基本的な欲求：食事、睡眠、休息など）が背景にある事例への対応

学校での様子

A君は忘れ物が多く、宿題もやってこない日が増えてきています。

学習への意欲は低く、授業中はぼんやりしており、時々、うつ伏せて寝ています。

一方でイライラして、些細なことで悪態をついたり、突然手を出して周りの子供に怪我をさせたりする場面も見られます。

最近では、給食を貪るように食べ、真っ先にお替わりに並び、他の子供の食べ残しまで食べようとします。また、服や上履きの汚れも目立ちます。

周りの子供たちからは「A君はお腹が空くとキレるから、昼前には近付かない方がいい」とか「A君の家はゴミ屋敷」という声が上がっています。

A君に教員が注意をしても、無気力な様子は変わらず、時には反抗的に睨み付けます。担任は、保護者と話したいと考えていますが、保護者会には一度も出席していません。

分析のポイント

無気力で意欲が低い？

授業への意欲が低く宿題もやってこないのは、気力がわかないからかもしれません。忘れ物が多く、服や上履きの汚れも目立つのは、家庭で十分に目や手を掛けてもらえてないことが考えられます。学習意欲の大前提として、食べたい、眠りたいという「生理的欲求」が十分に満たされている状態が必要条件となります。

イライラしているのはなぜ？

いつも空腹そうだったり、眠そう・だるそうに見えたりするのは、家庭で生活リズムが乱れ、栄養バランスのよい食事をしていないのかもしれません。このような状況では元気や意欲が出るはずもなく、活動するエネルギーがない中で学習や友達関係についていくことはイライラするのも無理はありません。「生理的欲求」が満たされないと前向きな気持ちになれず、投げやりな行動をとりやすくなります。子供の力だけでは、改善することは困難です。

保護者は困っていないか？

食事や睡眠について、心配な面があると家庭の状況が気になります。保護者は、保護者会にも出席しておらず、子供の教育に関心が低いのでしょうか。それとも、生活苦や体調不良など、何か問題を抱えていて、困っているのかもしれません。

具体的な対応

A君と話してみる

まずはA君とゆっくり話してみて、学習、生活、家庭等で困っていることはないか聴きます。その際、問題行動や意欲の低さを叱ったり、保護者を責めたりするような表現は厳禁で、「どんなテレビやゲームが好きなの？誰とやるの？食べ物は何が好き？誰と何を食べるの？」など本人が話しやすい話題から入るようにします。

家庭状況を把握する

連絡がとりにくい保護者であれば、家庭訪問し、自宅の様子から新たに分かることもあります。家族構成や、生活上の問題など保護者が学校に行けない理由が分かれば、家庭生活に対する支援の手掛かりになります。また、きょうだいがいる場合は、その学校（担任等）と情報共有することも大切です。

校内・関係機関との連携

家庭への生活支援は関係機関なくしてはできません。学年団や管理職、教育相談担当の他にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有します。きょうだいの学校(園)や子供家庭支援センター、民生児童委員等、他機関と連携し事例検討会を行い、各自の役割分担を共通理解します。定期的に検証を行い、実態に合った支援をしていきます。

なるほど

保護者を責めない

子供の「生理的欲求」を満たせない＝ネグレクト家庭の場合もありますが、保護者を責めても解決しません。そうならざるを得ない、健康上、経済上、あるいは保護者自身の成育歴や事情を傾聴し、困っていることを整理します。複合的な問題には医療や福祉等と連携し、家庭全体を支えていくことが大切です。

大切な早期発見

ネグレクトは、幼い時ほど、また長期に及ぶほど、人格形成に重篤な影響を残します。

幼い時のネグレクトは、人との信頼関係を築けない、刹那的、衝動的、或いは極端に発信力が弱い等の人格形成に繋がりやすいため、早期発見と救出が何より大切です。

安全の欲求（安全を求め、不安や危険から逃れようとする）が背景にある事例への対応

学校での様子

＜教室に入りたがらないB君＞

Ｂ君はある時期から、登校しても教室に入りたがらなくなり、何とか入ったとしても、ずっと下を向いて座っているようになりました。休み時間も教室に一人でいることが多くなり、先日は姿が見えなくなって探したところ、保健室の前に立っていたということもありました。心配して声をかけるとビクッと驚き、何かあったのかと聞いても黙ってしまいます。

ついにある朝、保護者から「学校に行きたくないと泣いている」と連絡がありました。

＜非行傾向のCさん＞

Ｃさんは入学時から夜間徘徊や無断外泊がある生徒です。学校では大きな問題を起こすことはありませんが、遅刻や欠席は多く、提出物も出さず、学習面では心配です。

Ｃさんを呼んで話を聴こうとしましたが、何らかの理由をつけて逃げようとします。

保護者に連絡を取ると、娘のことを心配しているというより叱ってばかりいる様子が伝わり、親子関係が非常に悪いことが推測されます。

分析のポイント

なぜ逃げているのか？

Ｂ君は理由を話してくれませんが、教室で過ごすのが怖いようだということは分かります。下を向き、一人で過ごしている様子から、友達関係で何かあるのかもしれません。声をかけられるとビクビクしてしまう様子から、いじめなども考えられます。

Ｃさんは、親子関係で安心できないことがありそうです。夜間徘徊や無断外泊をするのは、家にいたくないのかもしれません。家庭に安心感を抱けない状況だと、宿題などの勉強をしようという気持ちはわきにくくなります。

安全と思えているか？

Ｂ君にとっての学校、Ｃさんにとっての家庭は安全な場所と言えるでしょうか。

いじめられている子供にとって、学校は全く安心できる場所ではありません。

また、家庭内で暴力が振るわれたり、心理的に追いつめるような言葉にさらされていたりすると、子供たちにとって家庭は安全で安心できる場所とはいえません。さらに、それが身体的、性的な虐待のようなものであれば、家庭はまさに生命の危険を感じる場所となってしまいます。

具体的な対応

B君、Cさんと話してみる

学校を安全でない場所と捉えたり、家族を怖がったりする子供が、本当の気持ちを大人に話せるには相当な時間がかかるかもしれません。いじめられている子供は大人に話すと、いじめがよりひどくなると恐れがちです。非行傾向の子供は大人を信用しなくなっていることが多いです。それでも、子供たちが話してくれるまで根気強くかかわっていく必要があります。

周囲から情報収集する

いじめであれば、周囲の子供たちから情報を集めます。話すと次は自分がいじめられるのではないかという思いにさせないようにすることが必要です。そのためには、学校全体で「いじめは絶対許さない。必ず君たちを守るよ。」という姿勢を子供たちに見せることが大切です。Ｃさんの場合も前の学校から情報を得る、きょうだいがいる場合はその学校と連携するなどもできます。

校内・関係機関との連携

いじめであれば学校全体で対応することが必要です。虐待の疑いがあれば、子供家庭支援センターや児童相談所に相談しておくことも重要です。

なるほど

震災等による安全の欲求

震災や事件・事故に遭ったことで、日常の安全が確保されない状況に陥ることもあります。周囲との関わりと本人のレジリエンス（回復力）により、時間と共に回復してくることが多いですが、安全だと思えるようになり安心できるまでの間は、次の欲求である人との関わりを無理に求めても難しいでしょう。まずは安全が確保できる支援をしていく必要があります。

PTSD（心的外傷後ストレス障害）

震災や事件・事故に遭った場合、子供たちは心と体に大きなストレスを受け、バランスを崩すことがあります。眠れなかったり食欲がなくなったり、神経過敏になったり逆にぼーっとしたりとその表れ方は様々です。多くは１か月もすれば回復しますが、それ以上続く場合は医療等の専門機関での治療が必要となります。

まずは誰にでも起こる反応であることを本人に伝えますが、きちんと見守り、医療の必要性を検討していくことが重要です。

所属・愛情

所属・愛情の欲求（集団に属し、友情や愛情を求める）が、背景にある事例への対応

学校での様子

Ｄ さんは真面目な生徒で、言葉遣いも礼儀正しく、勉強も部活動も頑張りたいと張りきっていました。

しかし、５月の連休明けには少しぼんやりしていることが目立つようになり、課題の提出が遅れがちになりました。

部活動の顧問は、Ｄ さんを初心者でまじめにやっている割には不器用なところもあり、新人戦でダブルスを組もうと言ってくれる相手がおらず、仲間の中でわずかに浮いていると感じていました。Ｄさんは結局、試合に出られないことになりましたが、頑張って応援や練習には参加していました。しかし、１学期末考査で大きく成績が下がりショックを受けたのか、体調不良になり数日休みました。

２学期の初め、保護者から「体調が優れず休ませます」と電話連絡が入り、そのまま不登校になってしまいました。

分析のポイント

体調不良だけが原因か

慣れない部活動を頑張って疲れが出たのか、思ったより学習についていくのが大変で自信をなくし、ストレスから体調不良になってしまったのか、あらゆる側面から検討が必要です。特に入学間もない学年であれば、卒業した学校からの引継ぎ事項も有効な情報となります。

人間関係はどうか

学級や部活動等の人間関係で何かトラブルがなかったか、確認が必要です。部活動仲間の間で少し浮いているように見えたこと、ダブルスを組んでくれる相手がいなかったこと等から、仲間集団にうまく所属できない（仲間はずれの）印象をＤさん自身が感じていたかもしれません。あるいは、いじめを受けていたとも考えられます。

家庭での様子はどうか

家庭で何か心理的ストレスになるような事がなかったか等の確認が必要です。また、体調不良の様子、夏休みの様子、家での様子等を聴くと、原因がさらに見えてくる場合があります。

具体的な対応

Ｄさんと話してみる

Ｄさん本人とじっくり話をすることで、周りから見えていた事実とは異なる、Ｄさん自身の心理的事実が判明することがあります。

最近では SNS 等を介したやりとりが原因となり、対人関係に支障をきたすケースもあります。学校や家庭でも把握しきれない部分は、日頃からの生徒理解や情報の共有を十分に行っていくことも重要です。

情報収集と環境調整

部活仲間、クラスメイトからＤさんが部活動や教室内でどんな様子だったか、トラブルはなかったかを確認します。行き違いや問題があれば、話し合いや指導を通して、排除のない環境を作る必要があります。できるだけ中立な立場の友人を介して、Ｄさんがグループに戻れるよう調整します。

疎外感から生じる不安定な精神状態に注意

中高生年齢は対人関係で非常に過敏になる時期であり、同世代仲間への所属（居場所）がなく、「独りぼっち」になることは、大きな恐怖になります。疎外感やいじめ被害等の強いストレスが、統合失調症やうつというような精神疾患や、自傷や自殺念慮への一つの引き金になる場合もあります。これらを念頭におき、保護者と連携し、必要に応じてスクールカウンセラーや医療への相談も勧めていきます。

なるほど

大切な居場所

グループ意識が強まる思春期以降の子供たちにとって、友達や仲間が欲しいという欲求は、非常に重要です。

同じものを持ち、共通の話題を作り、集団に所属することに多大なエネルギーを費やします。

恐れる「孤立」

グループ内の自分の位置が脅かされる不安から、本心ではない行動をとる子供もいます。強い影響力をもつ子供の言動に迎合し、いじめに加担したり、傍観したりします。また、仲間外れを恐れて外部の子供に対して排他的な態度で接してしまう場合もあります。

コミュニケーションツールの携帯電話が手放せず、睡眠不足から生活が乱れたり、過剰反応から被害的になったりして、登校できなくなることもあります。思春期の子供のデリケートな心情を熟慮した上での友人関係の調整が必要になります。

承認・自尊の欲求（他者から認められることを求め、自分に自信をもちたい）が背景にある事例への対応

学校での様子

Ｅさんは、昨年度のクラスでは一人でいることが多く、物静かで目立たない生徒でした。今年度はクラス替えもあり、いつも一緒にいる仲間もできたようで、表情も明るく、元気な様子が見られるようになりました。

１学期の体育祭でＥさんは応援団に立候補しましたが、声も小さく大人しいためか、みんなの話し合いで別の係を勧められ、応援団になることはできませんでした。グループ作業でも、Ｅさんは他の生徒から「〇〇やって」と指示されていることが多く、表情がくもるようになりました。

保護者面談で家庭の様子を聞くと、姉二人がしっかりしており、両親はＥさんをいつまでも甘えん坊で、わがままな子と見ているようでした。

夏休みが明け、しばらく経ったある日、Ｅさんのグループの生徒達が担任に、Ｅさんがリストカットをしていると話しに来ました。傷は浅く目立ちませんが、一緒にいる生徒たちは気づき、心配になったためです。

校内で協議し、まずは担任が話を聞くことにし、Ｅさんとの面談を設定しました。

分析のポイント

居場所ができたが・・

Ｅさんは、昨年度まで仲の良い友達がいなかったようで、寂しい思いをしていたと思われます。今年度は、仲間もでき、学校生活が楽しく感じられるようになっていました。しかし、仲間ができ居場所ができればそれでいいというわけではありません。所属の欲求が満たされると、次の欲求が生まれます。

認められたい思い

人は、所属する集団の中で認められたいという思いがあります。一緒にいる仲間がいるとしても、その中で自分の意見が聞いてもらえなかったり、気持ちを汲んでもらえなかったりしていれば、承認・自尊の欲求は満たされません。

なぜリストカットをしたのか

Ｅさんは、せっかくできた仲間と一緒にいたいけれども、一緒にいても認められず、つらい気持ちになっているのかもしれません。家族の中でも似たような状況にありそうです。その気持ちをどうにもできずにリストカットをしたと考えられます。リストカットが気持ちを楽にすることをどこかで知ったのかもしれませんし、もしかしたら、死を考えたのかもしれません。

具体的な対応

Ｅさんの気持ちを受け止める

孤立していたＥさんが、仲間ができたことで、仲間との付き合い方や自己主張の仕方を試行錯誤している状況を理解した上で話を聴くことが大切です。安易な助言はかえってＥさんを傷つけます。認められたい気持ちや、そのためにどうしていいか分からない気持ちを受け止めるところから始めます。

保護者にも協力してもらう

学校だけでなく、家庭でもＥさんを認めるようなかかわりが必要です。リストカットを叱るのではなく、Ｅさんの気持ちを理解してもらうよう伝えることが重要です。姉たちと比べるのではなく、Ｅさん自身の良いところや得意なところを認めることが大切であると説明します。

専門家への相談

保護者が、家庭でＥさんへのかかわり方で悩んでいるようであれば、専門家への相談を勧めるとよいでしょう。Ｅさん自身がスクールカウンセラーに相談するのもよいでしょうし、自傷が今後も続くようであれば、医療の受診も必要になります。

生徒のカウンセリング

Ｅさんのような場合、周囲が「みんなあなたのことを認めているよ」と言えば元気になるというものではありません。自分らしさを認めてもらい、また自分のネガティブな気持ちも含めて、他者に認めてもらえる実体験をもって、初めて自分の価値を感じられるようになっていきます。

なぜ自分を傷つけるのか？

人は身体に傷を負った時、その痛みを和らげる働きが起こり、それによって心の痛みも和らぎます。そのことを知ってしまうと、つらい気持ちが耐えられなくなった時に、繰り返し自分の身体を傷つけるようになります。

自傷は、つらい気持ちをどうにかしたいためであることを理解する必要があります。